

# 国際競争力強化技術開発プロジェクト イチゴ炭疽病耐病性品種の耐性機構解明と減農薬栽培技術の開発 【研究概要図】

## 1. 研究目的

耐病性イチゴ品種「ななつぼし®」の複数のイチゴ炭疽病菌株への耐病性形質を調査し、ゲノム解析を進め品種識別マーカーを作成するとともに、輸出対象国の規制に適合する減農薬栽培技術を開発し、マニュアル化を行い輸出促進に貢献する。

## 2. 研究背景

イチゴは収益性・健康への機能性から重要な品目である。しかし近年、難防除病害による被害が拡大し、その対応は現在農薬に依存している。

このことから、減農薬栽培が可能で、海外で売れるイチゴ品種の開発が求められており、これまでに開発したイチゴ品種「ななつぼし®」の能力を活かした輸出处向けの減農薬・通年生産技術の確立が求められている。



耐病性のイチゴ新品種「ななつぼし®」

## 3. 研究内容

①イチゴ炭疽病菌耐病性遺伝子の評価。

「ななつぼし®」のゲノム解析を行い品種識別マーカーを開発する。

②「ななつぼし®」耐病性の評価。

国内において寡占的なイチゴ炭疽病菌に対する「ななつぼし®」の耐病性評価を行なう。

③AI活用による減農薬栽培。

青森・大阪・愛媛での栽培環境と生育のデータから、AI活用により減農薬栽培技術開発を開発する。



AI活用によるイチゴの減農薬栽培

## 4. 達成目標・期待される効果

### 達成目標

- ・「ななつぼし®」のイチゴ炭疽病菌株への耐病性形質調査
- ・品種識別マーカー開発
- ・AI活用減農薬栽培技術を確立



### 期待される効果

- ・耐病性を利した輸出適応栽培技術の確立
- ・品種の違法複製防止
- ・輸出対象国の農薬規制に適合した輸出体制の整備

研究代表機関：大阪府立大学

共同研究機関：京都大学、産業技術総合研究所、（地独）青森県産業技術センター、愛媛県農林水産研究所、合同会社ナナツボシ、農業研究者 竹田順一